ぎふの農業人
美濃・飛騨
2017.JULY
Vol.5
JABANK PRESENTS・Farmer's voice in Gifu

食味にとことんこだわり厳選されたプレミアム米 いびいただき

清流と豊かな森、変化に富んだ気候に育まれる岐阜県の農産物と生産農家を紹介するシリーズの5回目は、プレミアム米※「いびいただき」です。岐阜県を代表するブランド米「ハツシモ」の中でも、特に食味にこだわって品質を厳選。JAいび川と青年部員が手間を惜しまずおいしい米を作り上げました。揖斐川、粕川など水に恵まれたこの地で米づくりにかける思いを、JAいび川青年部長の太田義則さん(43)に聞きました。

企画・制作／中日新聞広告局

揖斐郡揖斐川町 太田義則さん

※プレミアム米とは、食味計で水分、アミロース、タンパク質、脂肪酸などを計測し、JA独自の基準をクリアした良質な米。

「いただき」というネーミングは、一番品質の良い「頂点」のお米を提供したいという思いと、生産者へ感謝の気持ちを込めた「いただきます」という言葉から名付けられた。

甘味が強く大粒 美しい水で育つハツシモ

豊かな水と大地の恵で育った揖斐産農作物のブランド化に取り組む太田さん。その一環としてハツシモのさらなる品質向上をめざし、誕生したのがプレミアム米「いびいただき」です。

基準は、米のおいしさを総合的に評価し米のおいしさを表す指標である食味値80点以上。点数が高いほどおいしいとされています。国産米では65～75点が標準。70点を超えると7～8割の人がおいしく感じると言われています。

「80点以上の食味値を出すことはかなり難しいことです。稲の根張りを良くして、芯を強くする肥料を入れて倒れにくく栄養が穂にいきやすいようにしたり、水の管理もよりしっかりしないと。真夏は湯にならないようにしながら、あまり冷えすぎも良くありません。みんなそれぞれのやり方で管理しています」良い米作りのために必要なのは、各自の工夫に加え、土地が元々持っている力。山から湧き出た豊富なミネラルを含む豊かな水が米をおいしく育てています。

青年部が団結し おいしい米作りに挑戦

揖斐産農作物をブランド化するにあたり、青年部でプレミアム米を作ろうと話が出たのが4年前。初めから一丸となって取り組んだわけではなく、中には懐疑的な声もありました。

「そんな数字出るわけがないとか、やって意味あるのかとか。定める基準も厳しくしましたので、本当にできるのかという意見も多く出ました。しかし簡単に通る基準では意味がありません。JAにバックアップしてもらって優れたプレミアム米をつくり、青年部だけではなく揖斐ブランド全体、揖斐の農業全体が盛り上がればという思いでした」

そして、青年部員が団結。JAいび川では食味値を上げるために研修会や勉強会を開催したり、分析結果の報告会を行うなどの支援を行うとともに、通常価格よりも高く買取ることで栽培農家へメリットを還元できるような協力体制を作りました。

よりおいしいハツシモを自主基準で作ろうと努力した結果、米の食味ランキングでも特Aを取得。揖斐ブランドが浸透することで農家の所得が向上すれば、後継者も増えるとの思いが原動力となりました。

アグリサポート資金で 機械導入、更新を計画

作業委託が増え、ここ10年で栽培面積が4倍になった太田さん。現在は家族だけで30ヘクタールの土地をトラクター4台、コンバイン、田植え機、キャベツの収穫機と大型機械で耕作しています。

「ここまでの規模になると機械がなければできません。僕は機械が好きなので、大型機械を操作したり手入れするのも楽しいです。農業は好きになれることがないと、なかなか成り立たないと思います」と積極的に大型機械を取り入れてきました。これら農機の導入、更新時の強い味方となったのがJAのアグリサポート資金(※)。青年部員も多くの人が利用し、規模を拡大しています。

多くの資金を投入し工夫や努力が報われる瞬間は、何より消費者から「おいしい」の声が聞けたときです。「うれしい。頑張ってきたかいがある、努力して良かったと思います」と満面の笑みの太田さん。遠方からの注文も増え、口コミでおいしさが広がっていることが実感できると言います。

JAいび川では新規就農支援にも取り組んでいて、青年部員も増加傾向にあります。「いいものを作っても売り先を探すことが難しい。新しく農業を始めた人も作ること以上に、そこで自信をなくしてしまう人が多いので、JAと協力しながら、若い人が農業にやりがいを感じられるようにしたい。そのためにも『いびいただき』が、いいものを作れば売れるというモデルケースになればと思います」

「いびいただき」はJAいび川の直売所、ファーマーズマーケットで販売中。今後、生産量も増やし、販路も広げていく計画です。

農業機械が並ぶ倉庫

苗の発育状況を確認する太田さん

JAいび川組合長 堀尾茂之氏から

JAいび川は「農業者とともに所得増大を実現する」という目標のもと、担い手訪問活動を実施。専任渉外(TAC)を配置し、必要とされる情報とサービスを提供していきます。また新規就農者、農業後継者に対する支援策としてハウスリース、農機レンタルなどとともに「JAいび川担い手サポートセンター」に研修施設を設置。帰農塾・育成塾などの学習の場、食育活動の場として活用を促進します。

今後もJAいび川は地域農業者の資金ニーズに応えるJAバンクとして農業者の夢の実現をサポートして参ります。

本広告に関するご意見やご感想をお聞かせください。抽選で「いび いただき」をプレゼント!

〈写真はイメージ〉

主に岐阜県で栽培される、美濃地方の代表的な品種「ハツシモ」。揖斐郡内で生産されるハツシモは県内外から高い評価を受けていますが、その中でも食味を重視して厳選したお米を「いびいただき」としています。

①郵便番号・住所②氏名③電話番号④紙面に関するご意見を明記して下記の方法でお申し込みください。

【はがき】〒500-8875(住所不要)
中日新聞 岐阜支社 広告部
「ぎふの農業人」係

7月21日(金)必着

※個人情報は賞品発送において使用し、適正に管理します。
※当選者の発表は、賞品の発送(翌月予定)をもってかえさせていただきます。

※設備資金から運転資金まで、幅広い用途に活用できるJAの農業資金。詳しくは、JAまでお問合せください。

耕そう、大地と地域のみらい。

JAバンク 岐阜県下JA/JA岐阜信連

JAぎふ / JAにしみの / JAいび川 / JAめぐみの / JAとうと / JAひがしみの / JAひだ

── 岐阜県下JAは農業のメインバンクです ──